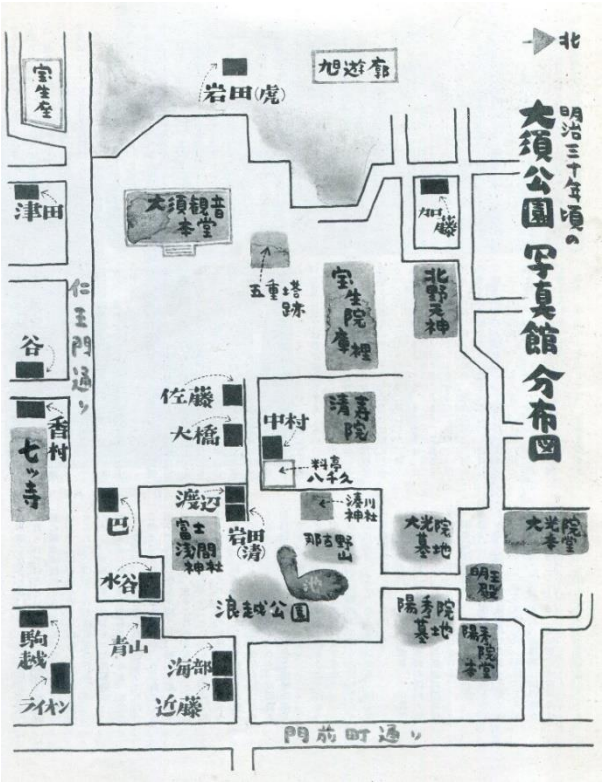
幕末明治の写真師列伝　第百四十九回　名古屋の初期の写真師たち　その二

高村六之助の弟子が水谷鏡（鏗太郎）、鍉次郎の兄弟で、この二人は、尾張藩士水谷音次郎の子息で、日本写真協会編『物故功労者顕彰録』によれば、水谷鏡は、「尾張名古屋の人。明治十五年十一月に、高村六之助に写真術を学び、明治二十二、三年頃、高村の後を継いで大須に移転した。」とある。

また、弟の鍉次郎も写真師となり、兄弟で大須浅間神社境内で水谷写真館を営んでいたが、水谷鏡（鏗太郎）は、昭和５年２月２日に亡くなり、名古屋市八事霊園内にある日本ハリストス教会名古屋教会の墓地に埋葬され、現在もそこに水谷家の墓がある。その後、その写真館は水谷鏡の子息水谷鉄次郎が継いでいたが、鉄次郎も昭和１６年１１月２８日に亡くなった。一方、弟の鍉次郎の方は、明治３２年南外堀町旧愛知県貿易館前に移転して写真館を営んでいたが、さらに明治４０年に上京して、本郷区田町で営業していたが、関東大震災で焼け出されて名古屋へ戻り、京町３丁目の貸家へ一時入居して、そこで再び写真館を開業した。その後、昭和５年、その場所から大津町通りに進出して、移転した。しかし名古屋の空襲で、知多郡園田町に疎開して、その地で親族の水谷直一（鍉次郎の子息か？）が写真館を引き継いで営んだ。

（森重和雄）



『中京の写真界９９年横井吉助三代の歩み』（昭和４７年、横井吉助商店）にある「明治３０年頃の大須公園写真館分布

水谷鉄次郎
昭和 16 年 11 月 28 日死去

水谷　鏡
昭和 5 年 2 月 2 日死去

当時の水谷写真館（明治 33 年撮影）